



発行・カトリック水巻教会
 編集・広報委員会
 遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
 〒807-0021
 TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
 第281号

少子高齢化している教会を考える

ある教会の信徒会長が言いました。「俺の教会は高齢者ばかりで大変だ。どうしたらいいか考えると頭が痛いよ」北九州地区のどの教会のリーダーも同じような話をします。

しかし、日本全体が少子高齢化しているのですから当たり前のことだと思えます。

司祭も高齢化しています。竹森神父も昨年度は黒崎と兼任でした。今年は以前から兼任の直方・田川と黒崎・天神町が兼任です。司祭も不足しています。

10月3日、小倉教会のミサは、さいたま教区の谷司教の司式でした。このときの谷司教の説教は、これからの私たちに大変参考になる内容でしたので要約を書いてみますので読んでください。

『15年前、私たちは(谷司教)ハノイに行きました。その時市内観光をしようと若い青年のガイドを雇いました。観光が始まる時この青年に、あなたはガイドだけが仕事かと聞くと、わたしはカトリックの神学生だと言いました。それでいろいろ聞くと、自分の教区には神学生が150名、神学生候補が150名いますとのことだったので、観光を辞めて彼の教区を訪ねることにしました。

ところが、この教区には、引退した司教1名、教区長の司教が1名、司祭が1名だけで、世界で唯一の司教より司祭が少ない教区でした。この教区の信徒数は15万人なので、小

教区でのミサは年に一回か二回だそうです。そのため毎週聖体祭儀をしていて、近くの教会でミサがあるときは信徒会長がそこに行ってたくさんのご聖体をもらってきて、聖体祭儀のときに聖体拝領が行われているそうです。ベトナムは社会主義国なので政府の許可が出ないと司祭への叙階ができません。だからたくさんの方の神学生がいても司祭になれないのです。ガイドのアルバイトをしていた神学生に、あなたが司祭になれるように祈りますと言って別れましたが、それから15年後に彼が司祭に叙階されることになり、今年の9月にハノイに行きました。日本にはたくさんの方の司祭がいて恵まれています。ベトナムの教区では聖職者が3人でも15万人の信徒が信仰を守っているのです。』

私たちが司祭に甘えているのではなく、自分たちで信仰を守ることを考える時期に来ているのではないかと考えさせられた説教でした。 広報・岩本

今モーセの十戒を読み直す・・・	2面
公文書シリーズ(12)・・・	3面
委員会報告・聖書への案内・・・	4面
典礼委員会議事録・聖書への案内・・・	5面
「黙想の家で…」報告・・・	6面
教会学校・今月の聖人・・・	7面
おしらせ・小グループ紹介・・・	8面

「今、モーセの十戒を読み直す」No.6

第二戒

「あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。みだりにその名を唱える者を主は罰せずにはおられない」

シスターたちも、朝・昼・晩・寝る前と、しょっちゅう祈っているでしょうし、皆さんの中でも祈っている人がたくさんいると思います。どうやって祈っていますか。

「主よ」って言っていませんか。主の名をみだりに唱えてはならないと書いてあるのに、掟破り、困りましたね。どう考えたらよいのか。この意味はこういうことだと思います。

抑圧のピラミッド・システムが一番頂上に神々がいる。そこにイエス・キリストの名を置いてはいけない。こんなことはあり得ないと皆さん思っているでしょう。「私たちはそんなこと…」。だけど産業革命のあとヨーロッパで階級社会ができて、その中でどうだったか。

資本家に教会がくっついていて、労働者は教会に来なかった。資本家は自分たちのいいように教会を作り上げていって、貧しい労働者には来世信仰を植え付けた。今は苦しいけれど天国に行ったら必ず幸せになるから、今は我慢しろという風に教えて社会体制を作ってきた。維持してきた訳ですね。

資本家のいう通りに教会も教えてきた時代は、まさにこれだった訳です。イエスの名を神々のところに置いてピラミッド社会を維持してきた。

第二戒の意味というのは、こういう抑圧のピラミッド・システムをイエスの名によって、神の名によって作ってはならないということです。

歴史の中でこの種のことはしょっちゅう

さいたま教区長 谷 大二司教

う行われて来ました。日本でもそうです。戦前、ここ(頂点)に天皇を置いていた訳です。その天皇とカトリック教会が一緒になって、天皇(制)を支えてきた訳です。これは、教会も一つのシステムを維持する機能を果たしてしまっただと考えることができます。日本だって同じシステムを作って天皇を神としてきた、そういうカトリック教会の歴史もあるのです。

第二戒に関してイエスはどういう風におっしゃっているか。

「わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。もはや、わたしはあなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人が何をしているか知らないからである。わたしはあなた方を友と呼ぶ」(ヨハネ 15・14-15)

だから頂上に私を置くのではないと、私はあなたの友として一緒にテーブルに着いて隣に座っているのだと、そういうご自身のあり方をイエス様は示してくださったと言えると思います。

この教会の抑圧のピラミッド・システム——ヒエラルキーの社会も(頂点から下辺に広がる)三角形で表すことができると思います。カトリック教会も第二バチカン公会議を経ていきますけれども、まだまだ一国一城の主がいて、それを乗り越えることができない「教会観」というのがあって、それはピラミッドを上から見たような同心円形をイメージしていると思います。

イエス様が「友と呼ぶ」とおっしゃってくださったのは、食卓を囲む(形の)教会のイメージ、共同体のイメージと言えるかと思っています。(次号へ続く)

公文書シリーズ 第12回 現代世界憲章(3)

この第2部では、より具体的な章立てが行われています。ここでは必ずしもキリスト教から出発したとは限らない社会・文化等、それ自体が自律的なものであり、それと同時に、神の秩序と融合できること、また、どうしたら神の意向に沿うものになるかを語っています。

第2部第2章「文化の発展」から、興味深い部分を抜粋します。

「哲学、歴史、数学、自然科学など種々の学問研究に励み、芸術に打ち込むことによって、人類家族を真・善・美のいっそうすぐれた理解と諸価値の総体の判断へ高めるため、大いに寄与することができる。こうして、神とともに万物を配置し、人の子らとともにあることを楽しみとするすばらしい英知によって、人間は素晴らしく照らされる。」

「二様の認識系列、すなわち、信仰の認識と理性の認識がある。また、教会は、芸術や学問がそれぞれの分野において独自の原理と法則を用いることを決して禁ずるものではない。これらを宣言する。したがって、この教会会議は、正しい自由を認め、文化、そして学問の正当な自律性を肯定する。」

第2部第3章は、生活に最も身近な経済・社会生活についてです。その冒頭の数個の文章を書きましょう。「経済・社会生活においても、人間の尊厳とその全き召命、全社会の善が尊敬され促進されなければならない。生産方式と商品および奉仕交流の進歩によって、経済は人類家族が増大した必要に、よりよく奉仕することができる適切な道具となった。」

すなわち、キリスト教信仰に比べれば卑しいとも思われる経済について、その価値を少しも否定することなく、それを直視する中に、それに携わる人間がどのように行動しなければならないか、と語っています。

所有ということについても、次の文章は、イエスの生き方、それを素直に模倣したアシジのフランシスコの生き方を考えるなら、議論があるかもしれませんが、ともかく、次のように書かれています。

「財産所有ならびに物件私有のその他の形態は、人間の自己表示に寄与し、さらに社会と経済において、自分の責任を果たす機会を提供する。」「財産または物件に対するある種の支配権は、個人と家庭の自律にまったく必要な領域を各自に提供するものであり、人間の自由の延長とも考えるべきである。それは義務と責任を果たすための刺激剤であるから、市民的自由の一条件でもある。」これを読めば、所有の意味は、ただの所有ということではなく、それによって社会における責任を負う、多大な責任を負ってしまう、ということが大切な点です。

何も持たないということは、神への道にストレートに向かうことに繋がります。財産を持つということ、それに煩わされることはイエスの教えにもある通りよく知られたことです。その財産をどうするかについて多大な責任を、社会において、そして神の前において負うということが、大切な観点です。

(公文書シリーズは今回で終わりです)

委員会等報告

2010年10月分

10月度小教区委員会

10月3日

1、行事報告

- ・ 敬老会 9月12日 参加者25名。
今年から年齢を75歳以上に上げた。

大人2000円

○11月23日(火)信徒協典礼研修会

講話：宮原司教 新田原教会10時～

2、前委員会の議事確認

- ・ 水道工事(香部屋)99750円。ほぼ予定どおり終了。
- ・ 同水道工事(司祭館、炊事場、風呂場)も急遽行うことに。294,000円。(執行部と営繕委員長に相談した)
同時に、寄付30万円があった。

6、その他

○信徒協について考えてほしいとの提案があり、議論がなされた。

司祭：信徒協が司祭団と意思の疎通を欠いている。

小教区委員長：意思の疎通ができていないと思った。

司祭：運動会をやってもよいが、他の場所で。あるいは、隔年にする。

信徒1：ルールとして指導司祭をおくというルールを課せば大丈夫では。

信徒2：小教区の行事だけでも大変なのに、教区レベルもあると大変。

信徒1：総論としては、信徒協というレベルがあって参加するのは当然。

それは、小教区、教区、バチカンを頂点とするカトリックに属しているのと同様。

なお、各論として、運動会を隔年に提案しても、構わない。

3、議題

- ・ 11月3日(水)召命の集い(日本カトリック神学院)参加希望者の名簿を張り出す。

4、各委員会から

①典礼委員会

- ・ ロザリオの祈り、9時10分から
- ・ 10月10日(日)14:00～むなかた黙想の家で集い。指導：染野神父

5、これからの主な予定

- 11月23日(火)教会小旅行、安心院巡礼 8時水巻教会出発。トラピスト修道院、三和酒造ワイナリーに行く。参加費



聖書への案内 No.15 ネハミヤ記

エズラ記と同じ本であったのが2つに分けられました。そのため二つの本は内容が前後しているところがあります。エズラ・ネハミヤの時代までのユダの人たちは、律法を正しく守らず自分に都合が良いように解釈し、都合が悪いことは守らなかったようです。

ユダヤ人の純潔性を強く求める書記官エズラの律法主義が強く反映されるようになって、ユダの人たちの信仰生活が一変してしまいます。このことからユダヤ教はエズラ(P5下)

2010年度 第6回 典礼委員会議事録

開催日時：2010年10月6日(水)19:30 場所：信徒会館

出席者：竹森神父、田中拓、松尾、山本、安永、柴田、三谷、矢田

《報告事項》

- 1 第3回 黙想の家で祈り語りあう集い
10月10日(日)14:00~17:00
講師：染野治雄神父
出席者：13名(未信者の参加なし)
- 2 10月17日(日)11:30 結婚式ミサ
(司会：田中拓氏)
樽角努さん(芦屋) 山口司さん(海老津)
- 3 北九州地区信徒協典礼部会信徒研修会
日時：11月23日(火)10時~16時
- 4 葬儀の「出棺の歌」は遺族最後のお別れから歌い始める。
参列者が先に庭に出て棺を迎える。

場所：カトリック新田原教会聖堂

講師：宮原司教

テーマ：「ともに喜びをもって、ともに手をたずさえて」

参加費：無料、弁当：注文(500円)

参加申込：10月10日~11月14日

《審議事項》

- 1 ミサ司会者予定表と典礼委員会名簿(改訂版)配布
- 2 11月の聖歌予定表
- 3 クリスマス前夜祭導入部 青年の祈り(宗友和氏提案の修正案作成)
19:00~19:20 ミサ導入にさきだつて音楽演奏
- 4 11月1日(月)諸聖人の祝日
ミサ時間 午前9:30
- 5 その他
9月26日(日)聖体奉仕者生涯養成
- 講座に安永氏参加。報告と司祭の見解。
・ミサの聖体拝領、病者の聖体拝領は、原則として司祭の役割である。
・聖体奉仕者による聖体授与は、司祭の急病、大人数の拝領者対応、司祭の高齢化、将来の緊急事態に備えるなど、司祭の判断で行われる。
・通常、祝福(祝別)を与えるのは司祭だが、信徒が病者や子どもと共に祝福を祈り求めることは出来る。
次回予定：11月10日(第2水曜日)



から始まったと言われるのでしょうか。ペルシャ王にエルサレムの長官に任命されたネヘミヤによって神殿の再興がなされます。そこで書記官エズラによって律法の再確認がされます。エズラはヘブライ語の律法を朗読し、同時に会衆が分かる言葉に翻訳して聞かせます。

神殿だけでなく会堂における律法の朗読と祈りが始まります。これ以後、現在のユダヤ教につながる会堂(シナゴグ)での祈りが始まるのです。

この時から律法の解釈が拡大していきます。イエス様の時代には大きく拡大した律法の解釈がありましたので、イエス様はこれを否定され、律法を守ることだけが神への信仰ではないことを指摘するのです。

第3回「黙想の家で祈り語りあう集い」

報告：矢田 公美

第3回「黙想の家で祈り語りあう集い」は、10月10日(日)14:00~17:00 染野治雄神父様の指導で行われました。翌日が体育の日の連休で、外出予定や運動会などの影響もあり参加は13名、未信者の参加はありませんでした。

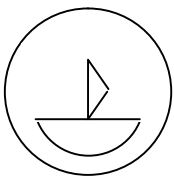
染野神父様は司祭叙階前に東京の本所教会にいらしたそうで、近くに相撲の高砂部屋があったそうです。ある日「一ノ矢」という力士がやってきたそうです。徳之島出身のカトリック、琉球大学の物理学科を卒業し、相撲道を極めようと24年間力士生活をして、三段目までを努め、引退直後だったそうです。大部屋暮らし、独身生活、慎ましい暮らしぶりなど修道生活と通じるものがあったとのことでした。

そこまでは前置きで、社会における教会の歴史を図にしながら振り返りました。初期の教会は、迫害の荒海であったローマ帝国にこぎ出す小舟でした。第2段階は中世、神聖ローマ帝国時代でコンスタンティン帝以後、政治と教会が一体となっていた時代。第3段階は、新世界発見・ルネッサンスの時代で第1バチカン公会議により教会と国家が分離してそれぞれ完全に別の社会となりました。第4段階、第2バチカン公会議後の「開かれた教会」は、社会と教会という二つの輪が交わる状況です。

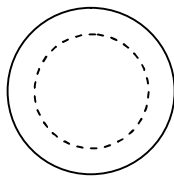
「教会」(神に呼び集められた民)はギリシャ語でエクレシア、ヘブライ語でカーハールというそうです。ユダヤ教から分かれたキリスト教会は、すべての人に開かれた新しい神の民の集まりです。

『悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。祝福を受け継ぐためにあなたがたは召されたのです。』(ペトロの手紙1 3・9)『キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、ご自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方をご自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現…』(エフェソ2・14)といった教会のあるべき姿が記されています。

お話の後の分かち合いテーマは、「教会は、社会の中で何が出来るか」でした。これは、わたしたち皆への神からの問いかけでもあります。



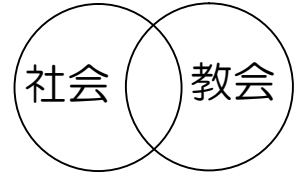
初期



第2期



第3期



第4期(現代)



教会学校のページ

9月26日

(1年生～6年生)

ルカによる福音(16章19～31)

- 1, みんなで読む
- 2, 分からないところを説明する
- 3, 大切なことは、助けを必要としている人、困っている人を見たら、無視しないで、喜んで手助けする。

10月10日

(1年生～6年生)

召命の集いの作品作り

テーマ「わたしをおつかいください」

神様のお役に立てることって、どんなことがあるか考えて、ノートに書く。
その中からカードに絵をかく。

今月の聖人 30日 聖アンデレ使徒

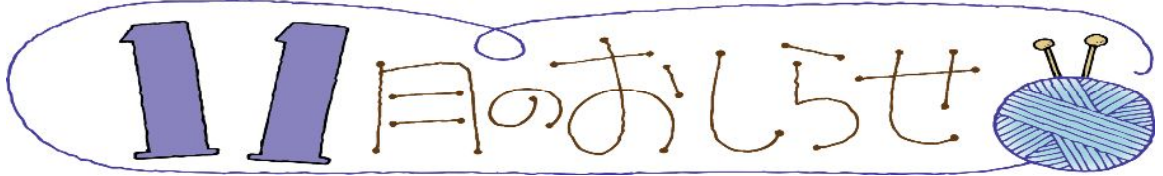
1世紀

アンデレは、ガリラヤのベツサイダの漁師であった。初め洗礼者ヨハネの弟子であった彼は、イエスが通りかかったとき、ヨハネが「見よ、神の子羊を」(ヨハネ 1.36)と言ったのを聞き、その晩はイエスと過ごした。翌日、兄弟シモン・ペトロ(聖ペトロ)をイエスのところに連れていった。その後、ペトロと網を打っていると、イエスに呼びかけられ、2人は従った(参照 マタイ 4.18-20、マルコ 1.16-18)。

イエスは、その後12人の弟子を選び、アンデレもその中に入った。聖書の中でアンデレが登場するのは、イエスが行なったパンを増やす奇跡の場面(ヨハネ 6.8-10)などで、地味ではあるが、思慮深い性格が現われている。

伝承によれば、イエスの昇天後ギリシャのパトモスで宣教し、そこでX型の十字架にかけられて殉教したといわれている。彼は漁師の保護者、またスコットランドの保護者とされている。特に東方教会では、特別な保護者として敬われている。





★諸聖人の日・死者の日★

◇諸聖人の日のミサ

日 時：11月1日(月) 午前9時より

◇死者の日のミサ

日 時：11月2日(火) 午前7時より

★安心院巡礼旅行★

日 時：11月23日(火) 勤労感謝の日

8:00 教会出発

17:00 教会到着

行き先：トラピスト修道院

安心院葡萄酒工房

参加費：一人2,000円

参加を希望される方は、聖堂の後ろにある
申し込み用紙に、名前を書かれています。

★ 特別寄付★

吉田地区 鬼塚富由子さん

高須青葉地区 池尻紘子さん

お二方より教会にご寄付をいただきました。

★北九州地区信徒協典礼研修会★

日 時：11月23日(火) 10時より

場 所：新田原教会

宮原司教様が来られます。参加を希望される方は聖堂後の掲示板に記名させていただきます。

★九州地区外国人セミナー★

11月23日(火)に長崎教会管区で第五回九州地区外国人セミナーを開催します。参加希望者は遠賀地区の岩本さんまでお知らせください。貸し切りバスが出ます。

人-ひと

【帰天】安らかに！

◇9月25日

鬼塚 重忠さん (吉田地区)

小グループ紹介シリーズ

レプトン会

南米ペルー・リマ市にある貧民街の貧しい子どもたちを支えています。

皆様のご協力により、毎月の募金と特別献金またワイン・ケーキの販売や平和の集いでの物品販売等で、毎年40万円をペルーへ送金し続けて13年目になります。ペルーの現状報告会や黙想会も続けています、現在会員は47名です。一口100円からの募金に協力して下さる方をお待ちしています。

イエスのカリタス修道女会ペルー共同体一同からのメッセージ『新しい福音宣教の形でしょうか・・・水巻教会の皆様が送ってくださる善意と愛を私たちがこちらの子どもたちに伝えていくのですから。』

レプトン会世話人 岩本ナセ (遠賀地区)